

特別講演 1

「高血圧は心不全と心房細動の最も重要な原因である」

東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授

小室 一成 先生

我が国は、世界でも例を見ないほど急速に高齢化している。高齢化によって多くの疾患は増加するが、とりわけ顕著なのが、心不全と心房細動である。心不全治療は、薬物ばかりでなく、デバイスも大変進歩しているにもかかわらず、世界的に心不全の患者数と死亡者数が急増しており大きな問題となっている。心不全の原因疾患として、高血圧、虚血性心疾患、弁膜症、心筋症が挙げられるが、いずれも心肥大を惹起し、その肥大した心筋の機能が低下することによって心不全を発症する。従って心不全の発症を予防するには、心臓への負荷をとり、心肥大の形成を抑制することが重要である。一方心房細動も高齢化によってその患者数は増加している。その原因は、心房への負荷であり、疾患としては高血圧や弁膜症が重要である。また心不全と心房細動には密接な関係があり、一方が他方を誘発し、悪循環を形成する。心不全や心房細動を発症させないためには、心臓への負荷をとることが重要であり、その意味で高血圧の治療が何よりも大切である。